

令和4年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市御室老人デイサービスセンター

1 施設の管理運営

・介護保険法に基づく、（介護予防）通所介護事業及び介護予防型・短時間型デイサービスの実施

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

2 事業実施内容

【老人デイサービス事業】

- ・通所介護・介護予防通所介護事業実施とこれに伴うサービス提供（食事・入浴・機能訓練・レクリエーション・送迎・相談業務などの提供）
- ・日曜日と年末年始（12/31～1/3）を除く毎日開所
- ・通所介護計画に基づく個々の利用者の生活支援を目指したサービス提供。個別機能訓練計画に基づいて、専門職（柔道整復師）との日常的な連携のもとに行う個別機能訓練
- ・利用者の興味・関心に即して、選択できるレクリエーションを提供し、グループ活動の実践による心身機能の向上、生活の充実のための支援を行うとともに、集団でのレクリエーションを提供することによる、協調性の助長や仲間意識の醸成を図る
- ・個々の利用者に対する相談援助と関係機関との協議
- ・サービス向上に向けた取組としてユーザーアンケートの実施と第三者評価事業の定期受診、職員に対する内外研修の積極的な取組

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

（参考）自主事業内容

3 サービス提供状況

管理者：1名 生活相談員：2名 看護師：6名 機能訓練指導員：4名
介護職員：13名 運転手：4名 調理員：5名

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

4 市内中小企業への発注に対する考え方

経営の安定に、経費削減は欠かせない考え方ではあるが、施設が根ざす地域の事業所に協力を得ることにより、効率的な設備保全や、消耗品管理につながるものが重要であるとも考えている。また地元の小売店からの食材の確保などは、利用者の食に対する安心にもつながることから、これらを両立させるべく、本会経理規程に基づき、綿密な相談・調整を行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 延べ利用者数(実績値)

7370 人

(2) 実利用者数(実績値)

1000 件

(3) 収支実績

ア 令和4年度収入状況(単位:円)

介護保険収入	74,013,641
利用料収入	4,742,334
委託料収入	0
補助金収入	0
寄付金収入	0
雑収入	0
その他	33,574,901
収入計	112,330,876

イ 令和4年度支出状況(単位:円)

人件費	76,054,423
事業費	14,003,165
委託費	0
小額修繕費	0
その他	22,268,474
支出計	112,326,062

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

令和4年年2月に全利用者を対象とした、法人統一のアンケートを実施。当センターより必要に応じ説明の上配布し、無記名で法人事務局宛の返送による回収を行い、回収率は61.0%であった。

(2) 利用者満足度把握の結果

【利用時間】	満足: 76.6%	やや満足: 17.0%	やや不満: 0.0%	不満: 0.0%	無記入: 6.4%
【送迎】	満足: 91.5%	やや満足: 4.3%	やや不満: 2.1%	不満: 0.0%	無記入: 2.1%
【入浴】	満足: 78.7%	やや満足: 10.6%	やや不満: 2.1%	不満: 0.0%	無記入: 8.5%
【食事】	満足: 72.3%	やや満足: 19.1%	やや不満: 2.1%	不満: 0.0%	無記入: 6.4%
【レクリエーション】	満足: 59.6%	やや満足: 27.7%	やや不満: 0.0%	不満: 0.0%	無記入: 12.8%
【機能訓練】	満足: 57.4%	やや満足: 21.3%	やや不満: 2.1%	不満: 4.3%	無記入: 14.9%

その他。職員の身だしなみや態度、言葉使い、施設の使い勝手や環境などを質問した。全体的な満足度として、満足: 83.0% やや満足: 8.5% やや不満: 0.0% 不満: 0.0%と90%以上の方に高い評価いただいた。

相対的に満足されている旨の回答が増えており、とりわけレクリエーションに関しては、少しずつ制限を緩めながら行うことができたことから、前回より大きく満足度を向上させることができています。

(3) 意見等への主な対応状況

アンケート結果は、集計後速やかにミーティングおよび職員会議など職員間で共有した。また施設内に掲示し、皆さんに見やすい状況を提供している。令和3年度はコロナ感染予防の観点から色々とレクリエーションに制限をかけたことから利用者満足度の低下がみられた。前回アンケートの要望などを踏まえ、適切な感染予防を行いながら、少しでも満足度を向上させるプログラムが提供できたことから、今回のアンケートの満足度が向上できている。

完全にすべてを解禁できる状況には至っていないが、引き続き、利用者・ご家族との連絡帳や送迎時のやり取りなどを通じて、さらにご要望に応じていく対応をしていきたい。

7 その他特記事項

(1)

コロナ禍により、例年受けてきた地元中学校等のチャレンジ体験の受け入れはなかったが、介護等体験や看護学校生徒の実習（コロナ感染症拡大により急遽中止となった）などを受け入れ、社会的使命として福祉と教育の接点の場としての努めを果たす努力をしてきた。また、地元の保育園児との年間を通しての交流も、今年度も引き続き全体が相互訪問する交流は中止としたが、折に触れたプレゼント交換を、互いの代表園児・利用者が訪問して手渡すなどし、その関係性を損ねることなく取り組みを続けることができた。

(2)

- ・京都市立鳴滝総合支援学校を卒業した職員については、保護者とも連携を取りながら、業務のフォローアップ研修などを踏まえて、順調に業務を続けている。現状週20時間勤務としている中、担当業務の拡大や勤務時間の延長などのステップアップにいかにつなげていけるかは課題として残っている。
- ・今年度も、卒業後の進路として高齢者福祉施設での関りを希望している実習希望があり、その受け入れを行った。実習前の教師や保護者も加わった面談から実習途中でのヒアリング、最終の振り返りなど丁寧に行うことにより、生徒の成長や教師や保護者の連携など、仕事として関わる目線からの連携を図ることができた。これらは、職員集団の中に、支援学校の卒業生がいるからこそ、職員全体が受け止められる姿勢を持っており、かなえることができた連携であったと自負している。

8 評価（指定管理者自己評価）

- ・事故再発防止委員会とサービス向上委員会は、毎月開催している。日々のミーティングで振り返っている事故等を再検証や、利用者個人に関するケース検討をさらに運営全体の中で検証するなど、これら両面からサービス充実を目指している。また下半期には、職員会議の時間で、職員主導の内部研修を毎月行った。ハラスメント研修や虐待マニュアルの検討など果たすべき内容に加え、認知症に関する勉強会や介護記録の考え方、地域包括支援センターへ実習に行った職員から取り組み内容などの感想を聞くなどし、職員資質の向上を図ることができた。
- ・職員の定着率が比較的高く、ベテラン職員を多く在席し、また介護福祉士を有する職員も多いことから、専門性の高い、安定したサービス提供を心掛けている。一方で、業務内容がその感覚が偏ったものになっていないかの振り返りを重視し、前述のサービス向上委員会などでの振り返りは大事なものとして認識している。